

き ら い



No 2

* 一人一人が輝くために *

2010. 7. 20 新田中学校

いよいよ明日から夏休みに入ります。それぞれの学年、一度っきりの貴重な休みです。充実した夏休みを送ってほしいですね。さて、子どもたちの中には、毎日忘れ物をして嫌な思いをしながら、どうしても忘れ物を減らすことができず困っている人がいるようです。そこで、今回は、「子どもの困り感を解消するために」ということでお伝えします。

その一声、子どもは必要としています！



学校では、『忘れ物』をした時には、各教科の授業が始まる前に、各教科担任に忘れ物をしたことを申し出ることでなっています。この1学期で1度も忘れ物をしていない生徒もいれば、毎日、毎時間忘れ物をしている生徒も見られました。

実は、この毎日、毎時間忘れ物をしてしまう子どもについては、周りからの『支援』が必要です。ではどのような支援が必要でしょうか。そこで、ご家庭でできる支援の例を挙げてみましょう。

まず、子どもが寝る前に、学校に行く用意ができているか聞いてみましょう。もちろん課題（毎日、各教科課題は出ています）が終わっているかも確認するといいですね。その際、「学校に行く用意できた？」では、子どもは「できた」と答えて、実はしていないことも…

そこで一声

○ 「明日学校では何の教科があるの？」「課題は何が出ているの？」と答えが一言で終わらない言葉かけが大切です。また、「スマイルライフ見せてごらん」と声をかけながら、確認するとより「忘れ物」は減ってきます。

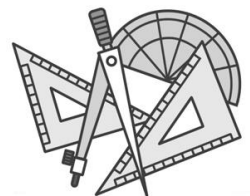
☆ 学校では、帰りの会で「スマイルライフ」に次の日の時間割及び準備するものを記入させています。

そして、学校から帰ってきたら一声

○ 「忘れ物した教科はなかった？」「〇〇の課題、忘れなかった？見せてごらん」と聞いてみましょう。そこで忘れ物がなかったら「よかったね、忘れ物がないと気持ちがいいね」とたくさんほめましょう。ほめられること、そして何より親が子どもの忘れ物に関心を持つことにより、毎日6時間の授業の中で、6回注意を受けていたことが、5回、4回と減っていくことで、子どもの学習意欲も変わってきます。

忘れ物をした子どもの心の中は、「あ～あ今日も怒られた・・・」「借りてきたのがばれないかな」など「嫌な思い」や「ドキドキ」していて学習に集中するどころではないかもしれません。そして、忘れ物が続くということで授業内容がどんどん分からなくなってきます。その子どもたちはきつこう思っています。「次は忘れないようにしよう」と。

是非ご家庭で、『一声』よろしくお願いします。



「中学生にもなって親がここまでしないといけないのか」と思われる部分もあるかと思いますが、忘れ物が減らず困っているのは「子ども」であり、それは単なる「不注意」ではなく、「支援」を必要としているのです。「何で忘れ物をするの！」という前に、一声かけて、「忘れ物」に悩まない学校生活を送らせてあげたいですね。また、なかなか忘れ物が減らない時には、学級担任にご相談下さい。



